

2022年度受賞者の受賞コメント

この度は、京都大学久能賞という身に余る賞を頂戴し、大変光栄に思います。この受賞を励みに、今後も夢に向かって努力を重ね、着実に歩んでいきたいと思う所存です。このような機会を与えてくださった寄附者である久能悠子様、そして選考に携わってくださった方々に感謝申し上げます。

私が将来の夢として掲げているのは、小児がん患者がたとえ病気を抱えていたとしても彼ららしく生活できるように、看護の力で寄与することです。子どもたちが小児がんを患うということは彼らの人生において、そして家族にとっても大きな衝撃になります。小児がんにおいてフォーカスされがちなのはその治療法であったり予後であったりですが、現在は昔と比べ小児がん罹患後の生存率は大きく向上しています。そんななかで本当にフォーカスされなくてはいけないのは彼らの生活ではないかと考えます。1度小児がんを患うと、再発や晩期合併症の恐怖と死ぬまで闘わなければなりません。そんな将来のある子どもたちの生活を長い目で見て支えていけるような看護師になりたいと思っています。

この夢を抱くに至るまで、様々な過程がありました。それは私自身が小児がんサバイバーだからです。私はこれまでの人生で小児がんを2度患いました。入院中も退院後も様々な壁が私の前に立ちはだかり、それは現在も続きます。しかしこの経験があったからこそ、看護師という職業の力に気づくことができたと思っています。自身の小児がんの罹患ではたくさんのものを失い、たくさんの夢を諦めました。しかし同時にたくさんの人の温かさに触れ、1つの大切な夢を得ることができました。どんな経験も全て自分に還元され、それをいくらかでも膨らませることができるということ、小児がんを患った私が夢を叶えることで、今病気と闘う子どもたちに証明し、今度は私が子どもたちの夢を紡いでいきたいと心から願います。

看護師は臨床経験がすべてものをいい、日本特有の離職率の高さなどからなかなか研究が進まないという現状があり、私の夢を叶えるには長期戦になるとは思いますが、今後はより研究の進む海外での活動も視野に、臨床と研究を両立できるような看護師を目指せるよう、自分の道を探っていきたいと考えています。次年度は4回生になるので、まずは研究の基本を学び礎とできるよう実践していきたいと思っています。

最後になりましたが、このように私が今も尚、夢を追い続けられる環境にあること、そして支援して下さる方がいらっしゃることに感謝しながら今後も精進していく所存です。

医学部人間健康科学科 坂内佳永